

特別講演 2

「全身性強皮症：最近の話題」

金沢大学医薬保健研究域医学系 皮膚分子病態学教授

竹原 和彦 先生

全身性強皮症は、全身諸臓器の線維化、各種自己抗体に代表される免疫異常、レイノー現象をはじめとする循環障害を特徴とする膠原病である。本日は、以下の3つの話題について講演する。

- 1) 早期診断：2013年にACRとEULARによって提唱された新診断基準を紹介するとともに、当科において過去に集積された全身性強皮症診断基準見合致早期例104例ならびに原発性レイノー病と診断された16例における新診断基準の感受性と特異性を検討したので、その結果を紹介する。
- 2) 全身性強皮症の新規治療として注目されているもの、特に肺高血圧症治療薬、その他治験中の治療薬などを紹介して、近い将来に展開されうる本疾患の治療戦略を予想する。
- 3) 全身性強皮症に伴う皮膚潰瘍の治療法と予防法、特に昨年保険適応が認められたエンドセリンレセプター阻害薬による手指潰瘍予防の実際について紹介する。本疾患は難治性疾患ではあるが、その診断と治療法は確実に進歩していることを強調したい。